

第30回 山梨県道路交通円滑化・安全委員会 議事内容

日時:令和7年9月8日(月)14:00～

場所:ベルクラシック甲府

■委員会出席者

早稲田大学 理工学術院
創造理工学部社会環境工学科 教授

(一社)山梨県タクシー協会 会長

(一社)山梨県バス協会 専務理事

(一社)山梨県トラック協会 会長

山梨経済同友会 代表幹事

甲府商工会議所卸売商業部会 部会長

(一社)日本自動車連盟 山梨支部 事務所長

(一財)山梨県交通安全協会専務理事

中日本高速道路(株)東京支社

企画調整課・担当課長

交通技術課・課長

甲府保全・サービスセンター所長

国土交通省関東運輸局山梨運輸支局

首席運輸企画専門官

山梨県観光文化・スポーツ部

観光政策グループ 観光政策推進監

山梨県県土整備部道路整備課長

山梨県県土整備部道路管理課長

山梨県警察本部交通部交通規制課長

国土交通省 関東地方整備局

甲府河川国道事務所長

佐々木 邦明(委員長)

雨宮 正英

(代理:常務理事・菊島 貴)

篠原 勇

坂本 幸晴

(代理:専務理事 中村 勇)

入倉 要

藤巻 眞史

原田 晃宏

岩柳 治人

足立 雅人

西川 洋介(WEB 参加)

樋上 和人

鈴木 一雄

二宮 智浩

(代理:芦沢 洋司)(WEB 参加)

保坂 和仁

(代理:鈴木 賢一)

金子 英人

(代理:加藤 秀紀)

戸澤 智和

(代理:野澤 佑輔)

草野 真史

(敬称略)

■議事内容

<渋滞対策>

1. 主要渋滞箇所に関する話題
 - ① 委員会の検討経緯と今回の論点
 - ② 最新の交通状況
 - ③ 第29回委員会意見への対応
 - ④ 主要渋滞箇所の見直し(最新の交通状況による分析)
 - ⑤ ピンポイント渋滞対策の検討状況
2. その他
 - ⑥ バスデータの活用方法の検討
 - ⑦ TDM(交通需要マネジメント)施策に関する検討
 - ⑧ 第31回委員会に向けて

<交通安全対策>

1. 委員会の経緯と今回の論点
2. 前回委員会(第29回)の振り返り
3. 山梨県における交通事故発生状況
4. 第2次事故ゼロプランについて
5. 経過観察箇所の評価結果
6. 生活道路における交通安全対策の推進について
7. 観光事故に関する事故概況の報告
8. 今後のスケジュール

■審議結果

●渋滞対策関係

<決定事項>

- ・令和7年度の主要渋滞箇所の解除箇所(6箇所)について了解を得た。
- ・令和7年度の主要渋滞箇所の追加箇所について、追加の必要性はなしとして了解を得た。
- ・令和7年度のピンポイント渋滞対策の検討箇所(9箇所)について了解を得た。

<議事内容>

【委員長意見】

- ・主要渋滞箇所からの6箇所解除については、データ等から見ても、問題ないと思われる。

【委員長質問】

- ・ピンポイント渋滞対策箇所において、先詰まりによる渋滞発生とあるが、検討する交差点が変わる可能性があるということか。

【事務局回答】

- ・先詰まりとなっている交差点は主要渋滞箇所であり、こちらが原因で渋滞しているため、先の主要渋滞箇所が問題となっている。

- ・まずは、先詰まりの原因となっている主要渋滞箇所の対策を実施することが優先されると思われる。

【委員質問】

- ・観光地では、キックボード等の問題も言われている中、地域・自治体の今後の対応、方向性はあるのか。把握している情報等があれば、お聞かせいただきたい。

【事務局回答】

- ・今後とも引き続き情報収集を行い、対応については、今後検討していく予定である。

【委員意見】

- ・観光地は、渋滞やトラブルが起こると、満足度が下がって、観光地としてのレベルが下がってしまうという懸念もあると思うので、早め早めの対応を行うことに越したことはないと思われる。

【委員意見】

- ・現状の渋滞対策は検討しているが、将来の人口減少に対する推測等をどのように加味していくのか。人口減少に伴い、車の所有台数の減少も予測されるが、インフラ整備も含めてどのように検討しているのか。把握している情報等があれば、お聞かせいただきたい。

【事務局回答】

- ・新山梨環状道路等の道路を作る際、厚生労働省の人口統計を踏まえて人口減少等を加味して将来の需要予測を行っており、人口が減少する前提でバイパス整備を行っている。バイパス整備を実施する際には、将来の交通量が減少することを見越した上で、整備の可否の判断を行っている。

【委員意見】

- ・渋滞が発生するところは、あまりその土地に慣れていない人や、遠回りをしたくないという人がその道を選ぶと思う。そこで、グーグルマップ等のリアルタイムな情報を活用し、最新の交通状況をアナウンスするという事も必要だと思う。

【事務局回答】

- ・渋滞対策にはハード対策以外にも、ソフト対策が有効的、効率的な場面もある。特に観光地では店舗等を絡めたソフト対策が有効的な場合もあるので、道路管理者で検討する時は、地域の皆様の協力も得ながら、ソフト対策も絡めた上で提案を行いたい。

【委員長意見】

- ・観光地の渋滞は、ピーク特性等、通常の渋滞と異なる点がある。渋滞情報の情報提供等を事務局で研究する方が良いのではないかと。情報提供とTDM等を含めて、渋滞対策の検討をお願いしたい。

【事務局対応】

- ・観光地と渋滞対策は面的な状態となっているので、国、県、市、NEXCO 中日本が面的な連携を行うことが重要である。

- ・ 全国で問題となっている駐車場待ちについて、駐車場予約システムを積極的に導入する等、様々な新しい取り組みについて、全国の事例も勉強しながら関係者が連携を取り、山梨県の観光の渋滞対策を講じていきたいと考えている。

●交通安全対策関係

<決定事項>

- ・ 第2次事故ゼロプランのうち今年度の対策効果評価の対象区間における評価結果について、下記の内容を報告し了承を得た。
- ・ 指標①事故危険箇所(基準A)、指標③死傷事故率・発生事故類型の選定区間:
- ・ 中間評価:43区間が総合評価へ移行
- ・ 総合評価:12区間が対策完了、1区間(昭和町西条(西条立体交差点))が経過観察
- ・ 指標①事故危険箇所(基準B)の選定区間:10区間が対策完了
- ・ 指標②交通事故多発地点の選定区間:7区間が対策完了
- ・ 【B群】地域からの要望による選定区間:7区間が対策完了
- ・ 対策後4年が経過した第1次事故ゼロプランの経過観察区間を対象に、第2次事故ゼロプランの選定指標に該当するかを確認した。今回は3区間が確認の対象であり、第2次事故ゼロプランへの追加がないことを報告し了承を得た。

<議事内容>

【質問・意見】

- ・ 現在、山梨県警察交通規制課と笛吹市が連携し、笛吹市富士見小学校周辺でゾーン30プラスを計画しており、令和8年度中の整備を予定している。整備計画案は道路管理者から国土交通省に提出し、本委員会で意見聴取する流れで良いか。

【事務局回答】

- ・ 道路管理者である笛吹市と警察が連携して整備計画案を作成し、本委員会において意見を諮ることにより検討内容を決定する流れとなっている。

【委員長コメント】

- ・ 生活道路の交通安全対策の推進に関して、幹線道路の渋滞発生箇所の近辺では抜け道として利用されることが多いと考えられる。渋滞対策の検討箇所では、生活道路の交通安全対策も併せてご検討いただければ良いと考える。

【質問・意見】

- ・ 生活道路での検討においてETC2.0データは十分に蓄積されているか。

【事務局回答】

- ・ ETC2.0データ自体はあるが、検討に使用可能なデータ数が蓄積されているかは場所によると思われるため、データ数を見てご相談させていただきたい。

【委員長】

- ・ 武田交差点周辺のような車が多く通っており、狭い道路が輻輳しているところでは使いやすそうに見える。一方で、まだまだ使いきれていないところもあると思われるため、自治体の方々にご説明いただきながら、ぜひ使っていただければ良いと思う。

第 30 回委員会の実施状況

